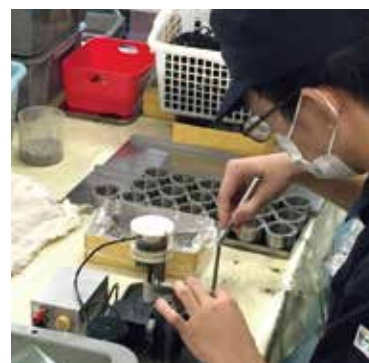
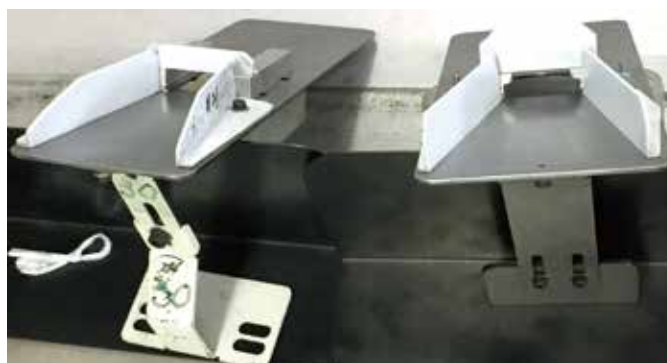


Universal NEWS 05

ユニバーサルニュース

滋賀県中小企業家同友会会報誌 [ユニバーサルニュース]
VOL.05 2017年11月発行

障害者問題全国交流会 in 滋賀まで いよいよ あと2年!!



TIY(株)では、工夫された治具で一人がひとつの作業工程を担い、障害の有無に関係なく作業しやすい環境になっています。

▼弊社(企業組合)は、障害のある人となない人が対等平等に働き、共に地域における納税者、生活者になっていくという、ある意味壮大な理想に燃えて一九七五年に創設されました。以来、困窮者ならぬ困窮企業として推移してきましたが、現在では33名の障害者有る無しの労働者が業務に勤しんでいます。

▼しかし、年が経るにつれ創設当初の思いが後年参加してきたメンバーにしっかりと伝わり切れないところが課題として感じられる今日この頃です。

▼そもそも障害のある人はおおむね生産性が低く、結果、労働市場から排除されています。そういう人たちと一緒に働くというのが弊社の趣旨ですが、生産性の高低でついあらぬ上下関係のようなものが発生しているようです。「出来る者は」おのずと「指導」する立場に立ち、図らずも上下関係が出来てしまっています。

▼「共に働くことの魅力」が、「能力が高い」から評価されるという価値観にショックを与える状況はまだまだ到来していないようにも感じている昨今です。

▼福山で開催される第19回障害者問題全国交流会での学びを現場での実践につなぎ、再来年の滋賀大会では全国の仲間と滋賀の実践として提案していきたいものです。

(白)

ユニバーサル委員会 活動・トピックス

福祉事業者の指針経営をバックアップ ～支援の軸を定める連続研修会～

ユニバーサル委員会ではNPO法人滋賀県社会就労事業振興センターと共催で、会員数の約5%に達する福祉事業者を対象とした、「支援の軸を定めるための連続研修会」を開催しています。今年で第6回目を迎える本研修は、事業所の経営や障がいのある方への支援を行う上で、ブレない軸を確立するために、「何のために」、「どのようにして」、「何をめざすのか」について深めています。「経営指針を創る会」へのステップとしても位置付けており、中堅から次期経営者候補が全4講のプログラムを受講しています。これまでは「何となく」日々を過ごしていた受講者が、「何のために?」を追求することで自己と事業所の将来を見つめ、成果物として「私の指針書」の作成に取り組む、限定3名のみ少数集中研修です。

- 研修内容** オリエンテーション (平成29年11月2日(木))
- 第1講 (2017年11月17日(金) 13:00～)
自己の価値観を掘り下げ、仕事に対する動機を深める
 - 第2講 (2017年12月15日(金) 13:00～)
SWOT分析シートで事業(所)の現状、強み弱み分析
 - 第3講 (2018年1月12日(金) 13:00～)
10年ビジョンを仮設し、短期・中期目標と自己の役割明確化
 - 第4講 (2018年2月2日(金) 13:00～)
「私の指針書」作成・発表
- 会場：コミュニティセンターやす
※第6回支援の軸の募集は終了いたしました。

キラメキ レイクマイスター

今回取材した谷口 拓朗さんは、いわゆる「ひきこもり」の期間を経て、現在は障害者支援施設+FARM(プラスファーム)で支援員として働いておられます。



谷口 拓朗さん

<インタビュー抜粋>

「ひきこもっていた期間は程度にもよりますが3～4年です。でも「このままではあかん」という思いがあって、「地域若者サポートステーション」に通いはじめ、そこで職業体験を紹介されました。体験を続ける中で周囲から仕事ぶりを評価され自信もでてきた頃、+FARMの新規立ち上げに伴って荷宮さんから誘われたのがきっかけです。

今年で4年目になり、最近は仕事の「責任」を考えるようになりました。今後はより一層真面目に仕事に取り組んでいきたいです。」

経営者から一言

真面目で誠実、その人柄が彼の魅力です。今では彼が責任をもって担当している業務もあります。リーダーとして人がついてくる存在になってくれればと期待しています。

NPO法人就労ネットワーク滋賀 常務理事 荷宮 将義氏
+FARM 東近江市五個荘竜岡町831

支援の現場から ～働き・暮らし応援センター～

まずは『はたくら』に…!

「障害者雇用を考えているけど、どこに相談したらえんやろ?」とお悩みではありませんか。県下7カ所の働き・暮らし応援センター、通称『はたくら』にまずはご相談下さい。「何から手をつけていいのやら…」「うちで働いて貰える仕事があるやろか?」等々、最初の一步のお悩みに対応させていただきます。

「当番制で分担していた清掃を任せたと、お客様から最近お店が綺麗になったね、と言われた。また元気よく挨拶をしてくれることで社内の雰囲気が良くなった。」これは障害者雇用を導入したある事業所からの感想です。『仕事の切り出し』の相談が意図せぬ効果を生み出し、今では清掃以外の仕事も任せられ、役割を持った社員の一人として成長された事例です。

障がいのある人も職場の戦力となりうる人たちです。潜在的な戦力はまだまだ地域の中で眠っています。その活躍の場は企業の中にも眠っています。ぜひ、『はたくら』をご活用下さい!

圏域	名称・愛称	電話番号
大津	おおつ働き・暮らし応援センター「Hatch(はっち)」	077-522-5142
湖南	湖南地域働き・暮らし応援センター「りらく」	077-583-5979
甲賀	甲賀地域働き・暮らし応援センター	0748-63-5830
東近江	東近江圏域 働き・暮らし応援センター「Tekito-(テキト-)」	0748-36-1299
湖東	働き・暮らしコート支援センター	0749-21-2245
湖北	湖北地域しょうがい者働き・暮らし応援センター「ほっとステーション」	0749-64-5130
湖西	湖西地域働き・暮らし応援センター	0740-22-3876



ユニバーサルニュース Universal NEWS

2017. November
VOL.05 2017年11月発行

発行所 ● 滋賀県中小企業家同友会
発行責任者 / ユニバーサル委員会 委員長 田井勝実
編集責任者 / 小島滋之 城貴志 岩泉匡洋

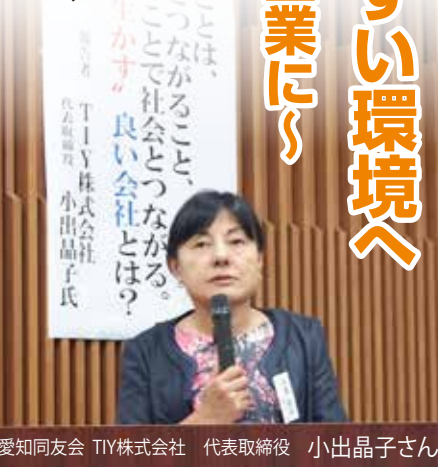
〒525-0059 草津市野路8丁目13-1 KE草津ビル1階
TEL.077-561-5333 FAX.077-561-5334
E-mail: jimushiga.doyu.jp URL http://www.shiga.doyu.jp

滋賀県中小企業家同友会
2019年 障害者問題全国交流会 in 滋賀
第3回 プレ学習会

とき **2017年8月4日(金)**
 ところ **フェリエ南草津**

障がい者も高齢者も 誰もが働きやすい環境へ
 共に働く仲間を求めて、ユニバーサルな企業に

二年後に控えた『2019年 障害者問題全国交流会 in 滋賀』の開催に向け、プレ学習会として愛知同友会のT-I-Y株式会社代表取締役小出晶子様をお招きし講演いただきました。
 T-I-Y株式会社での人材採用の取組みや考えをお話いただき、人材採用難の今、どう会社を継続発展させるのかという点を中心に考える学習会となりました。



愛知同友会 T-I-Y株式会社 代表取締役 小出晶子さん

誰もが働きやすいように ちよつとした工夫

T-I-Y株式会社は小出さんのお父さまが創業し、お母さまと近所の主婦たちと一緒に関わってこられました。しかし限られた時間の中で働く近所の主婦たちだけでは作業が追いつかず、仕事が滞っていました。

歯科衛生士の資格を持ち、歯科衛生士を養成する学校で教員として働いておられた小出さんでしたが、家業を継ぐこととなり、作業が追い付かない人手不足に悩まされて



いました。そんな中、教員時代に障害者診療実習で接した障がい者の方たちのことを思い出したのです。単純作業が多いので、働く場所や機械などに少しの工夫を加えることで障が

いのある方でも働いてもらえるのではないかと考え作業所に相談しました。1995年から障がい者の雇用が始まり、現在では14名の障がい者の方と共に働いておられます。作業において負担を軽減し、簡素化するための工夫を凝らした機械を作る工房を隣に設け、常に改良を加えておられます。障がいの有無、性別、年齢に関係なく働ける環境を作り、高齢の方や、家庭の事情で短かい時間でもしか働けない方にもとても働きやすい環境になっています。

仕事量に適した 賃金への設定

そうした工夫で職場環境を整えてこられた小出さんですが、障がい者を雇い始めた当初は障がい者の方の賃金は健常者と比べて安い設定をしておられたそうです。しかし同じ仕事をしているのに賃金が安いということに胸がざわざわ落ち着かず、疑問を感じ始めたために改定。健常者と同じ金額設定でスタートし能力に応じて給与アップという形態にされたそうです。実際、健常者以上の作業スピードの

方もおられ、賃金に差をつけるのはおかしい状況だそうです。助成金には頼らず、生産性を上げてしっかり従業員を守ることができている方法で経営されています。

周囲の理解への苦勞

障がいのある方にも健常者と同じ量、ないしはそれ以上の仕事量をこなしてもらい、会社にとって大事な戦力として仕事をされているのですが、急に大きな声を出してしまったり、何かをきっかけにパニックに陥ってしまったりする人もいます。そうしたことを迷惑に思

う従業員もいて、全員からの理解を得ることはなかなか難しいようです。

作業をする部屋を分けて関わりを少なくしたり、面談を行い障がいや特徴について説明したりと、みんなに理解してもらおうのはなかなか難しいとしても、お互いが気持ちよく仕事ができるように努めておられます。

働くことが 人生の楽しみ

入社当初はお腹が痛い泣いていたり自分のごときか見えていなかった障がいのある



人たちが、現在では周囲の状況をみて、重い荷物を持って歩くを手助けしてくれるようになったそうです。仕事を通じて、助け合うことや効率よく作業をこなすということが身についてきたのだと思われま



またインターンシップや中学生の職場体験の受入もしており、教えることで成長したり、外部から刺激を受けてより一層仕事に励んでおられる方もいるそうです。支援学校の指導に行った際に、学生につきまとうので嫌がられたことがあり、そういった出来事も笑い話としてご本人と話されるといったエピソードもあるそうです。支援学校で指導できるようにになりたいなど、目標を持つている方もいて、みんな仕事を楽しく生き甲斐として働いておられます。

その人その人に合っていることを見つけてるのが経営者の仕事。出会ってしまった責任として、その方が楽しんで働き、生き生きとした仕事を提供出来る素晴らしい会社経営をしておられます。

グループ討論から

Aさん 見た目では健常者となんら変わらない障がい者もいて、周囲の従業員に気付いてもらいにくいことがありますが。障がいということをおかたいていないので、いつも挨拶をしてくれないなどの不満があります。
Bさん 私は就労を斡旋している立場として、本人のためにもきつちり周囲に理解してもらってから雇用いただくようにしています。どういった障がいや、どういうことが苦手か、ご家族の許可も得てできるだけ伝えていきます。

してしまっている人がいます。その人はラインに入ってもいい、手を止めると周囲に迷惑がかかる場所です。ラインでは責任もあるため、居眠りすることはなくなりました。
Bさん そういった配慮が必要ですね。私の会社では高温の物を扱ったり危険を伴う仕事が多いので、あまり任せられない仕事がありません。労災に繋がることは絶対に避けたいといけません。そうすると雇ってしまった以上、その仕事に適さなかった時が難しくなります。

Aさん やはり周りの従業員の理解は必要ですね。働いている中で、障がいのせいで周囲に迷惑をかけることなどはありませんか？
Cさん 仕事中に居眠りを

そうですね。その人に適した仕事を探して、働く場を提供するのが私たち経営者の仕事ですね。作業の細分化や工夫によっていろんな方が働ける会社になることが大事ですね！

これからも共に 楽しみながら仕事を

小出さんは障がい者雇用をしよう！と考えて始めたわけ

